

夢の設計図

やりたい仕事や実現したい夢 **助産師** その仕事や夢を選んだ理由
 いとこのお母さんが、この仕事をしていて、かっこいいなと思ったから。

その仕事や夢を実現するために必要な条件(資格など)や力、お金はなんだろう
 ○コミュニケーション力 ○想像力 ○体力 ○子供たちとのせし方
 ○学費 ○じゃく代 ○かんご師・助産師の資格

年齢	必要な能力を身につけるためにやること
12歳 小学校	コミュニケーション力を身につける たくさんの人と話す。
13歳 中学校	もともと想像力を身につける 体を使う部活に入り 体力をつける
16歳 18歳	赤ちゃんの体のことや、はげましの言葉、本気で勉強に取り組む。「受験勉強」
19歳 大学	神村の助産学校に入る。 助産師のことを、もともと知る・学ぶ
22歳	助産師 試験に合格する。
23歳 仕事	そして
28歳	助産師になり、たくさん活やくする。

仕事以外であなたが大人になったらやってみたいこと、実現したいこと
 ○全国 回りたい (リョ行) ○しゃみで、セピアをする。
 ○子どもたちと、もつふれ合う

あこがれの助産師さん

神村学園初等部 五年 寺師 沙良

私は、しょう来助産師になりたいです。興味をもったきっかけは、おばが助産師で「赤ちゃんはかわいいよ。やりがいのある仕事だよ。」と教えてもらったからです。助産師という仕事は、おばあさんになってもずっと赤ちゃんに関わる事が出来ます。私は、小さい子供や、赤ちゃんが好きなので、助産師という職業に興味をもちました。

まず、お母さんに、助産師さんはどんな感じだったのか聞いてみました。陣つうでつらい時、こしをおしてよりそってくれたそうです。産まれる直前に先生が来たので、九わりは、助産師さんのもと、出産が進んだそうです。始めての出産で不安だった時、安心する言葉をかけてくれて、とてもたよりになりました。産まれる前に、少しトラブルがあり、心配したけれど無事に産まれて、本当に

ほっとしたと言っていました。

私は、いくつか気になることをおばに質問してみました。

まず一つ目は、働いてうれしいことを聞いてみました。産まれるまで十カ月間、心配や不安をかかえ、出産のいたみにもたえて、やっと赤ちゃんが出てきた時、お母さんはとてもやさしい顔をしているそうです。その顔を見る時が一番うれしいそうです。

二つ目は、赤ちゃんのすごいひみつを聞きました。赤ちゃんは、お母さんのおなかの中で、おっぱいを飲む練習をしているそうです。そしてお母さんのおなかから出てくる時、頭が大きいとお母さんが大変です。そのため、頭のほねとほねを重ねて、できるだけ小さくなって出てくるそうです。それを聞いて、赤ちゃんはかっこいいなと思いました。同時に、なんて愛おしいんだろうと思いました。

次に働いていて大変なことを聞きました。助産師さんは、お母さんの命・赤ちゃんの命二つの命をあずかっていることになり。なので、どちらかの命が苦しいサインを出している時は、いろいろな選たくをしなければいけません。時には、ていおうせつかいをする事もあります。なので、常にお母さんと赤ちゃんの管理をすることが重要なのだそうです。最後に、助産師さんほどのような仕事を知って、まずは命をあずかる責任のある仕事なのだと思います。かわいいだけでなく、大変なお仕事だけど、うれしいこと・赤ちゃんのすごいひみつなどを知り、やりがいのある仕事なんだなと思いました。なのでしょう来助産師さんになったら、お母さんにたよられる助産師になりたいです。そして、大好きな赤ちゃんが安全なかんきょうで産まれてくるようお手伝いしたいです。

*こちらは、小学生『夢をかなえる』作文コンクールの「ライフプランシート」としても使えます。